醫療に出るに、常人の六十歳ぐらゐのごとし、備前國船坂の産のよし、名を義玄といふ、其妻四十歳藤江といふ、娘辰、十七歳、男子三歳、十五歳也、義玄翁正徳五年乙未七月十五日の誕生といふ、或人の携へたる扇に、此翁の手跡を見るに、吾是醉中翁と書たり、書風筆勢更に老筆とは見えず、去る天保十一年子の春、公へ召出され、御扶持を賜るよし聞ゆ、

奥州白石近在の農夫段平といへる老人、文政十二年己丑の春六百七十二歳にして、尼ヶ崎廣徳寺といへる禪刹は、俗縁の由にて彼寺に暫く滞留し、且京攝の名所舊跡と見物せんとて、浪花に來り、博勞町一丁目大喜といへる旅舎に止宿せるよし傳聞り、予○暁晴翁直に面會せざれば事實詳ならず、

〔易林本節用集太言辭〕短命○○（タンメイ）

〔類聚名義抄四大〕夭○天屈也、拔也、折也、盡也、音殀、通正、和エウ、

〔千祿字書上聲〕夭天下正通

〔伊呂波字類抄疊字〕夭○亡○　夭○死○

〔下學集下態藝〕中夭（チウヨウ）

〔釋名八釋喪制〕少壯而死曰レ夭、如二取レ物中一天折也、

〔類聚名義抄七歹〕殤○音傷、未二成レ人一死

〔釋名八釋喪制〕未二二十一而死曰レ殤、殤傷也、可二哀傷一也、

〔令義解九假寧〕凡無服之殤謂未二成レ人一死曰レ殤也、生三月至二七歳一○下略

〔下學集下態藝〕早○世（サウセイ）早死

〔塵袋九〕一天死トハ非分ニ死スルヲ云フ歟

ツチニハサオモヘリ、但年未二三十一而死曰レ夭、呂向云、二十以下死者曰レ殤、ト釋セル事モアリ、コレニ